

第3章 具体例の記述パターン

(1) 具体例の記述パターン

具体例の記述パターンは、主題文で述べている事柄が、読み手にとってわかりにくい場合やイメージしにくい場合に利用します。

主題文を述べたあとに、「たとえば」や「その一例として」といった言葉を入れ、支持文を書き始めます。支持文に具体例を記述することにより、読み手の理解度をアップさせます。

~~~~~は、~~~~~である。たとえば、~~~~~  
~~~~~。

~~~~~は、~~~~~である。その一例として~~~~~  
~~~が挙げられる。

(2) 記述例：パソコン用語が英語であることを説明する

■悪い例

①マウスのボタンを押すことを「クリック」と呼びます。②「クリック」とは、日本語に訳すと「カチッ」という音のことです。③マウスのボタンを押したときに「カチッ」という音がするので、この名前が付けられました。④このように、ほとんどのパソコン用語は、動作や形状を英語で表しています。

※例文中の①②などの丸付き数字は、説明をしやすくするために振っています。

<問題点>

- ・この文章の目的「パソコン用語が英語であること」が、最後の④に書かれている。読み手は④まで読まないと、何を伝えたい文章なのかがわからない。
- ・①を読んだ読み手は、「この文章はクリックの説明だ」と受け取ってしまう。クリックについてすでに知っている場合は最後まで読まない可能性がある。

■修正例

①ほとんどのパソコン用語は、動作や形状を英語で表したものです。②たとえば、マウスのボタンを押すことを「クリック」と呼びます。③「クリック」とは、日本語に訳すと「カチッ」という音のことです。④マウスのボタンを押したときに「カチッ」と音がするので、この名前が付けられました。

<この文章の構成>

- ①の文..... 主題文「ほとんどのパソコン用語は、動作や形状を英語で表したものである」
- ②～④の文..... 具体例「クリック」の説明

<ポイント>

- ・主題文①を読むことにより、読み手はこの文章が何について書かれたものかを容易に推測することができる。
- ・主題文①「パソコン用語が英語である」ということを立証するために、支持文②～④を記述している。

(3) 記述例：パソコン初心者にローマ字入力とはどういうものを説明する

■悪い例1

①ローマ字入力とは、入力したい単語をローマ字に置き換えて入力する方法のことである。②たとえば、「にほん」と入力したいときは「N I H O N N」と入力する。

<問題点>

- ・特殊なケース「ん」を具体例にしている。「ん」はローマ字入力では「NN」だが、ヘボン式ローマ字では「N」である。「にほん (N I H O N N)」だと初心者に「どうしてNが2回なんだろう？」とかえって疑問を持たせることになってしまう。読み手を混乱させたり、読み手に疑問を持たせたりする例は不適切である。

■悪い例2

①ローマ字入力とは、入力したい単語をローマ字に置き換えて入力する方法のことである。②たとえば、「いえ」と入力したいときは「I E」と入力する。

<問題点>

- ・「いえ」はローマ字入力の特性が出ていない。文字の入力方法には、ローマ字入力とかな入力がある。ローマ字入力は、ローマ字に置き換えるために、かな入力よりもキーを押す回数が多い。「いえ」は、ローマ字入力でもかな入力でも、キーを押す回数は2回であり、ローマ字入力の特性が出ていない。

■修正例

①ローマ字入力とは、入力したい単語をローマ字に置き換えて入力する方法のことである。②たとえば、「へいせい」と入力したいときは「H E I S E I」と入力する。

<ポイント>

- ・具体例が適切である。その理由として以下のことが挙げられる。
 - ・誰でも知っている、一般的な言葉である
 - ・「ん (N)」のような特殊なケースでない
 - ・ローマ字入力の特性がよく現れている

☆上達のコツ☆

- 読み手にとってイメージしにくい事柄は、具体例を挙げて説明する。
- 具体例を挙げる場合は以下の点に注意する。
 - ・複雑なものや特殊なものは避け、イメージしやすいものを選ぶ。
 - ・特性が明確に現れているものを選ぶ。